しまね教育魅力化ビジョン「ふるさと島根を学びの原点に　未来にはばたく　心豊かな人づくり」
学び続ける教職員の育成と校内の OJT を支援する教育センター

センターだより

令和４年１２月 第１３４号

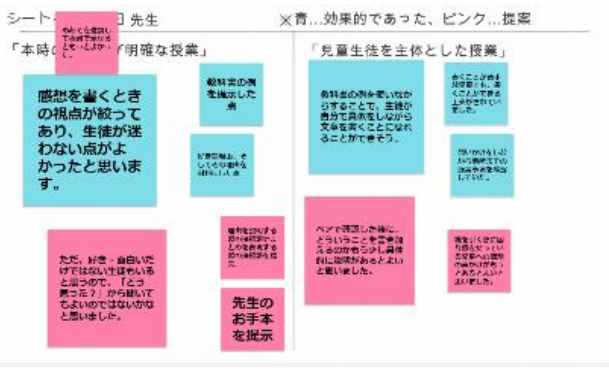
島根県教育センター
https://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/

島根県教育センター浜田教育センター
https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/kikan/hamada_ec/

若手教員授業力向上セミナー　～オンラインでつながる学び合いの輪～

今年度、５月～９月に月１回、全５回の計画で「若手教員授業力向上セミナー」を実施しました。目的は、自信と夢をもって教職を目指せる人材の育成に向け、採用３年目までの若手教員の授業力向上を継続的にサポートすることです。令和４年度は、年間５回のオンラインによる研修を実施し、のべ 23 人の受講者（＋同数の指導主事）の参加を得ました。いずれの回も、参加しやすいように放課後の時間での開催としました。受講者は、事前に、それぞれの担当学年・科目に応じて指導案（略案）を作成し、当日は、ZOOM を使って小グループに分かれ、他の受講者と互いに発表・協議し合ったのち、指導主事のアドバイスを受けるという内容でした。

【受講者アンケートからの抜粋】
・自分の教科の指導主事から助言を聞けて、とてもためになりました。（中・保健体育）
・自分の授業の在り方についてあらためて考える良い機会となりました。（高・数学）
・指導主事の先生方に多面的にアドバイスをいただき、授業改善の方向性を考えることができました。（高・地歴公民）
・指導案にしても模擬授業にしても、誰かの目に触れると考えると、自分の中で意識が強まりますし、アドバイスももらえてモチベーションも上がりました。（高・国語）
・ジャムボードを使うことで、自分の欠点が明確化してわかりやすいです。（中・英語）
・高校の模擬授業を見たことで、小中高の流れがわかって良かったです。（小・国語）
・これからの授業をよりよくしていきたいという刺激になりました。（小・特別支援）



最後に、複数回参加していただいた受講者の言葉を載せます。来年度、もっと多くの若手教員の方が参加していただけることを、所員一同、心待ちにしています！

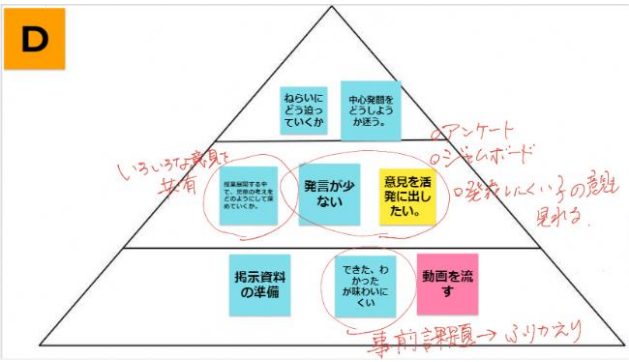
【継続的にご参加いただいた受講者の感想】
このセミナーを受講したのは本校の教頭先生から勧めていただいたことからでした。私としても、指導主事の先生方からのご指導を受けたり、他の先生方の授業を拝見したりできる数少ないチャンスでしたので受講を決めました。
受講したことで生徒視点での「なぜ」を考える授業づくりを深く掘り下げることができました。また他校種の先生方からは授業の流れや板書の見やすさなど、刺激をいただくことができ、あらためて参加できて良かったと思います。ありがとうございました。（高・地歴公民）

子どもたちが ICT 端末を「毎日使う」環境づくりを

～GIGA スクール時代のクラウド活用講座～

GIGA スクール構想開始から 2 年目を迎え、全国的には導入段階から活用へと移行する中、島根県内でも児童生徒 1 人 1 台端末の配付や通信速度の増強が進み、子どもたちがクラウドを使いこなせる環境が整ってきました。そこで、今年度の情報教育に関わる研修では、体験を通して ICT 端末活用の肝であるクラウドのよさを捉えていただくことを第一に考えてきました。

10 月から 11 月にかけて行った「GIGA スクール時代のクラウド活用講座」では、体験を通して捉えたクラウドのよさを、授業づくりにおける課題の解決に活かせないか、グループで協議し発表・共有しました。受講者からは「クラウドを活用することで授業での課題となっていたことに対応できる可能性があることに気づいた。」「クラウドを活用したグループ活動は有用である。」といった声が聞かれました。



子どもたちの生活や学習をよりよくするために使ってほしい ICT 端末。まず目指すのは子どもたちが「毎日使う」段階です。毎朝ログインし、タイピング練習、紙のドリルが終わったらデジタルドリル、アンケートフォームで授業のふり返りなど、学校全体で子どもたちが毎日取り組める環境づくりから始めてみませんか。

新学習指導要領実施のための授業改善に、先生方と共に取り組みたい

令和 3 年度から令和 5 年度までの悉皆研修となっている「新学習指導要領実施のための高等学校授業改善研修」を、今年度は、国語科･地歴公民科･数学科･理科･外国語科･芸術科(美術･書道は今年度のみ)･保健体育科･家庭科･情報科･産業教育科において開催しました。県内外からの講師や指導主事による講義や実践紹介、演習等を通して授業改善に向けた研修を行いました。出席された先生方からは、「学習評価や ICT の活用の仕方など、困っていることや不安に感じていることを共有できて良かった。」などの感想が聞かれました。とくに、「指導と評価の一体化」のための「観点別学習状況の評価」については、これから授業実践を蓄積し、県内の先生方で共有する必要性を強く感じました。3 年間の悉皆研修の最後となる次年度に向けて、先生方と一緒になって取り組んでいきたいと思います。

「事例検討会などの持ち方やあり方について」

浜田教育センター　教育相談スタッフ

令和３年度浜田教育センター相談スタッフの研究成果としてまとめられた「次へのヒントが見つかるケース会議」（以下「次ヒント会議」）は、おかげさまで学校教育現場の先生方にも大変好評を得ることができました。令和４年度には、子ども安全支援室主催のもと、県内全ての教育事務所管内の小中学校生徒指導主任、主事の先生方を対象に、この「次ヒント会議」の説明、並びに演習を通して、各学校で本ケース会議を有益に活用できる研修をさせていただくこともできました。

従来、学校現場で取り組まれていたケース会議というのは、ともすると時間ばかりがかかり、費やした時間の割には有益な解決策を見出せないまま終わったり、特定の職員が多く発言をしていたりするようなものが多かったのではないでしょうか。

自分が困っていることをケース会議の議題として出すと、自分の取り組み方のまずさや力量のなさを、まな板の鯉状態で周囲から指摘されているように聞こえてしまい、「ケース会議」というものへの抵抗感が高くなってしまうこともあるでしょう。学級担任制である小学校では特に、学級内で起こる様々な問題が担任個人に起因すると思い込み、背負い込んでしまうことも多く、ケース会議に向けての心理的ハードルは他校種と比べ、どうしても高くなってしまう傾向があるのではないかと思います。

この「次ヒント会議」は、その辺りの課題に着目したものです。最大の利点は、実際に困っている事例提供者（学級担任や教科担任、その他の教職員）が参加者からの質問に対して答えていくことを通して、参加者から最終的に提案される取組案の中から自分ができそうなことを自分で選んでいくところにあります。

会議終了時にその課題がどうなっていればよいかという「ゴール設定」も事例提供者が最初に行っていくことで、参加者はそのゴールを意識した質問や取組案を出すことになります。それぞれの段階には明確な時間設定がなされますので３０～４０分程度の時間で会議を終えることができます。また事例提供者が抱えている問題を一気に解決しようとするのではなく、現状から一歩具体的な取組を行っていくことで、問題解決に向けた好循環を生み出していくことに着目しているのも、本ケース会議の大きな特徴と言えます。

「次へのヒントが見つかるケース会議」

既に多くの学校でこの「次ヒント会議」を実践されているのではないかと思いますが、何か困ったことに直面された時、先生方は、まずは周囲の先生や生徒指導主任、主事の先生に相談されるのではないかと思います。そこで有益な対策が見出せなかったり、これをやってみたけれどうまくいかなかった、他の先生方の意見も聞いてみたいと思われたりした時こそ、この「次ヒント会議」の適切な実施時期ではないかと思います。

決して一人で抱え込むのではなく、大いに本ケース会議を活用していただければと思います。そして学校現場の先生方も子ども達も、明るく前向きに日々を過ごしていかれることを願っています。

※OJT 研修　日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修
Off-JT 研修　日常の職務を離れて、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修

“児童生徒理解”そして“かかわる力”の育成をめざして

教育相談スタッフ　相談セクション

子どもたちの実態や彼らを取り巻く状況はコロナ禍とも相まって多様化･複雑化し、不登校は加速度的に増加しているとも言われています。改訂版『生徒指導提要』（文部科学省 2022 年）では、生徒指導について「社会の中で自分らしく生きることができる存在へと児童生徒が、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」として、新たな定義が示されました。児童生徒の傍らで彼らの幸せや成長を願い、支える私たち教職員には、“児童生徒理解の力”と“一人一人と繋がりかかわる力”がますます求められています。教育相談スタッフ相談セクションでは、今年度もこのテーマに関する研修講座や出前講座を複数実施しました。生徒指導や教育相談の実践力はすべての教職員にとって必要で大切な資質能力です。今後も研修機会の提供や研究推進に取り組んでいきたいと思います。

今年度実施した能力開発研修講座より、受講者アンケートの記述で反響が大きかった内容の一部をご紹介します。

「コロナ時代と不登校への支援のあり方～子どもの願いと学校の役割～」

立命館大学大学院教職研究科　教授　春日井　敏之先生

○子どもは大人の期待を裏切って成長するもの

・学校は失敗付きの練習ができるところ。失敗しても排除されない場所でなければならない。

・「親や教師の期待に応えられないとき、辛いとき」に、「それでも親や教師は見捨てないで愛し応援してくれている」と実感できる子どもは、自分らしく伸びていく。

○思春期は第二の誕生の時期

・大人から見た価値判断の押しつけやコントロールではなく、日常生活における子どもの小さな自己決定を尊重していくプロセスが大切。

・自己決定は、自己責任論ではない。「自己決定＋大人の応援付き」これが大切。そこから子どもの主体性は育っていく。

【能力開発研修［921］「不登校の理解と支援講座」2022 年 6 月 30 日（木）オンライン開催】

「リアルとネットの交差点～これからを生きる人たちにとってのネットの意味を考える～」

島根大学人間科学部　教授　岩宮　恵子先生

○子どもの心を理解するために必要なことは

・理解を焦らない。すぐに分かったような気にならないこと。大きな読み筋(特性、家族関係の問題、過去のトラウマ等)だけに頼らないこと。目立つエピソードだけを取り上げそれを原因と決めつけるのは NG。

・「なぜ？」が大切。言葉に出来ない何かがある。なぜあんな行動をするのか？なぜあんなことを言うのか？を考えていく。心の問題を言語化（心理化）ができない子どもたちは、身体化や行動化によって自らの心の状態を“表現”している。

○人はどういうときに安心感を得るのか

・「この人は自分を受け入れてくれる」と感じられる 1 対 1 の関係性の中、やりとりを丁寧に。

・追い詰められて危機的な状況のときに必要なのは、何人もの人から認められることよりも、1 対 1 のリアルな関係で「繋がっている」という感覚を得ること。

・支援者は「コミュニケーションコスト」が低い人（低いエネルギーでも関われる相手）になることを目指す。本調子ではないときでも話せる、黙っていても和めるという相手になれるように。人は調子を崩しているときや大変な状況にあるときは、どんな相手に対しても「コミュニケーションコスト」を高く感じてしまうもの。

【能力開発講座［1042］「生徒理解と支援講座」2022 年 9 月 16 日（金）オンライン開催】